

23. 2. 28

佐倉市

# 教育センターだより Vol.23

平成23年2月28日発行／佐倉市教育センター／TEL. 043 (486) 2400 <http://www.city.sakura.lg.jp/kyoikucenter/index.htm>

## すばらしき出会い

所長 佐久間 保男

少し前のことですが、1月に行われた行事に参加しました。旧堀田邸で行われた子都手留会※1（しってるか）さんによる「佐倉こどもかるた」の大会、そして、さくらっ古※2（さくらっこ）さんによる「佐倉の民話等を聞く会」です。かるたには、優しい色使いのわかりやすい絵が描かれており、子どもたちにとって、佐倉がより身近に感じられる内容になっています。会場は、子どもたちの楽しそうな声で満ちあふれていました。「民話等を聞く会」では、佐倉に伝わる内容のものを取り上げ、衣装も工夫しておられました。身振り手振りを交えて情感たっぷりに語るその姿はととても素敵で、語り手の情熱が伝わる舞台でした。



※1市民カレッジ16期生16名で構成。会と子ども会の協力で貸し出し用かるたがセンターにある。※2佐倉の民話を語るボランティア団体。小学校低学年向けの題材を中心に活動を行っている。

子都手留会さんが作成したかるた解説書（小冊子）の中に、次のような一文があります。「私達は市民カレッジの『まちづくり』の学習において、子どもたちが佐倉を知り、佐倉が大好きなふるさとに思えるようなことを何かできないかと考え……かるたの『読み札』『絵札』『解説文』と、子どもが興味をもてるような事から『知ってるかい』文にまとめ、この小冊子にしました。」また、さくらっ古さんの「団体の目的」には「少子高齢化の今日、これからの時代の子どもたちの情操教育に大切な『ふるさとを愛する心』を育てたいと願い、佐倉に伝わる民話を調査、発掘し次の時代に語り継いでいくことを目的として結成」とあります。

二つの団体に共通していることに気づいていただけたでしょうか。キーワードは、「子どもたち」・「ふるさと」です。激動の時代を生き抜いてこられた方々の思いや重みが、このキーワードにあります。私の言葉で言い換えさせていただくならば、これは「これからの時代を生き抜いていく子どもたちに託す気持ち」なのだ、と考えます。そして労を惜しまず、**佐倉の子どもたちのために**何ができるかという深い思いを、様々な形にされていらっしゃるのではないのでしょうか。佐倉には、まだまだ、同じような思いをもつ方が多くいらっしゃると思います。学校教育の場においても、地域の人材にどう活躍していただくか、どの部分ならご協力いただけるか等考えていくことが、今後とも、大切なことであると思います。



佐倉市教育センターでは、これまでに市内各学校等の協力を得て、各種の調査研究等を行っています。これは、現状を把握するためのものや、児童生徒の学力向上を目指した指導方法改善のためのものです。

## 《平成22年度の主な事業》

### 市民の教育に関する意識調査

次期教育ビジョンの策定にあたり、佐倉の教育に対する市民の考えや思い、意見を広く取り入れて佐倉のあるべき教育の姿を明らかにし、報告書を出しました。ぜひ参考にさせていただきたいと思っております。

### 佐倉市学習状況調査

学習意欲及び学習・生活習慣に関すること、並びに全学年の国語、算数・数学、英語（中のみ）の基礎学力と、今年度から小学校5年生～中学校3年生の国語、算数・数学について活用問題を新たに加え、状況分析を行い、今後の生活・学習指導に役立てていこうとするものです。

### 佐倉学道徳副読本の作成【4年次】

郷土佐倉への愛着を育み、社会に貢献できる人材を育てるために、先覚者の生き方や偉業を学ぶことを通して、「好学進取」の気風を育てるために行おうとするものです。本年度末に副読本を各学校に配布する予定です。

最後になりましたが、一年間教育センター事業にご理解とご協力をいただきましたことに感謝申し上げますとともに、今後も佐倉市の教育の向上・発展のために引き続き努力していく所存です。

## 教職員意識調査集計からの考察 平成22年度「佐倉市学習状況調査」の結果から

佐倉市では、平成22年度「佐倉市学習状況調査」を実施しました。その中の調査として、市内の全小中学校の教諭・講師を対象に、毎年、意識調査を実施しています。その集計結果から見える、学校現場の先生方が抱える現状と課題を、新学習指導要領のねらい等をふまえて、考察したことを述べたいと思います。

### 学習指導

#### 基礎的・基本的な知識の習得をめざした学習に力を入れていますか。

	小学校	中学校	全 体
とともしている	45.8%	48.6%	46.9%
おおむねしている	50.6%	48.2%	49.7%
少ししている	3.3%	3.2%	3.2%
あまりしていない	0%	0%	0%
全くしていない	0%	0%	0%
未記入	0.3%	0%	0.2%

小中学校ともに、ほとんどの教職員が基礎的・基本的な知識・技能の習得をめざした学習に力を入れていることがわかります。

その指導の内容・工夫については、多岐にわたると思います。センターの過去の調査(H17教職員意識調査)によれば、次のような報告がされています。

【小学校の指導例】・繰り返し指導・個別指導・体験活動の工夫  
【中学校の指導例】・教材の工夫・授業の目標やねらいの明確化  
どの指導も大切なことばかりです。日々の継続をしていくことで、小さな積み重ねが児童生徒の育成につながると思います。

### 学習指導

#### 知識・技能の活用を図る学習に力を入れていますか。

	小学校	中学校	全 体
とともしている	22.3%	22.9%	22.5%
おおむねしている	60.9%	61.7%	61.2%
少ししている	16.0%	14.2%	15.3%
あまりしていない	0.5%	1.2%	0.8%
全くしていない	0%	0%	0%
未記入	0.3%	0%	0.2%

知識・技能の確実な定着(習得)を図り、実際に活用できる力を育成することが大事であることは、約8割の先生方が意識していることから、意識調査の結果からわかります。新学習指導要領では、「習得・活用・探求」という学習の流れを、知識・技能の習得を図る学習活動、知識・技能の活用を図る学習活動、探求活動ととらえています。

【教科での活用の学習活動例】

- ・観察・実験をし、その結果をもとにレポートを作成すること
- ・文章や資料を読んだ上で、知識や経験に照らして自分の考えをまとめて論述すること

### 学習指導

#### 言語に関する能力の育成を図る学習を充実させていますか。

	小学校	中学校	全 体
とともしている	15.5%	12.3%	14.2%
おおむねしている	56.9%	39.5%	50.2%
少ししている	21.3%	31.6%	25.3%
あまりしていない	3.3%	10.3%	6.0%
全くしていない	0%	1.6%	0.6%
未記入	3.0%	4.7%	3.7%

すべての学習の基盤となるのは言語に関する能力であり、そのために各教科等で言語活動を充実させる必要があります。

意識調査からは、約6割の先生方が言語に関する能力の育成を意識した学習活動をしていることがわかりました。

新学習指導要領の教育課程実施上の配慮事項では、言語環境の整備と言語活動の充実があげられています。言語に関する能力を育成する中核的な教科である国語科で培ったものを各教科で生かしていくことが重要となってきます。

**保護者との連携****児童・生徒の様子や学習の状況などを日頃から保護者に説明したり、協力を得たりしていますか。**

	小学校	中学校	全 体
とともしている	13.3%	7.9%	11.2%
おおむねしている	50.9%	40.6%	47.1%
少ししている	30.3%	36.4%	32.6%
あまりしていない	4.0%	10.3%	6.4%
全くしていない	0%	2.4%	0.9%
未記入	1.5%	2.4%	1.8%

約6割の先生方が意識している反面、約4割の先生方が意識が低い調査結果となっています。学校は、保護者や地域の方々の理解を深めるとともに、連携及び協力の推進をするために、情報を積極的に提供するとあります。（学校教育法第43条）その目的を達成するために、保護者・地域の方々と児童生徒を育て、連携・協力を深めて、活性化を図っていくことが重要となります。

新学習指導要領でも、学校・家庭・地域社会がそれぞれ本来の教育機能を発揮し、全体としてバランスのとれた教育が行われることが重要であると述べられています。

**地域教材****地域の教育資源や学習環境を活用して授業を行っていますか。**

	小学校	中学校	全 体
とともしている	9.0%	5.5%	7.7%
おおむねしている	36.5%	24.5%	31.9%
少ししている	43.2%	35.2%	40.0%
あまりしていない	9.5%	22.9%	14.7%
全くしていない	0.3%	9.1%	3.7%
未記入	1.5%	2.8%	2.0%

全体として約4割の先生方が地域を活用した授業を行っていることがわかりました。地域教材や人材も含めた教育資源についての活用は、今後の課題としていきたいと思います。

佐倉教育ビジョンでの「誇りある人材を育てる・学び教育」推進プランにもあるように、佐倉学を推進しています。住んでいる地域を理解し、郷土に生きた先人の知恵や受け継がれてきた文化を学ぶ機会を学習に生かしていければと思います。また、新学習指導要領でも、地域で教育活動を展開していく意味や大切さが述べられています。

**新学習指導要領****新学習指導要領のねらいや今日的な教育課題に対応した研修を行っていますか。**

	小学校	中学校	全 体
とともしている	8.8%	8.3%	8.6%
おおむねしている	48.6%	42.3%	46.2%
少ししている	37.2%	37.5%	37.4%
あまりしていない	3.8%	7.9%	5.4%
全くしていない	0.3%	1.2%	0.6%
未記入	1.3%	2.8%	1.8%

小学校は来年度、中学校は再来年度より新学習指導要領の完全実施を控え、これまでも理念や内容等について各校で研修を深めてきたことと思います。また、今日的な教育課題についても、各校の実態に応じた課題について研修をしていることと思います。

センターでは、各校の研究紀要や指導案をデータベース化し、各校のよりよい実践を市の財産として共有化し、佐倉の教育を支援していきたいと思っています。また、今日的な教育課題についても、調査・研究をすすめ、各校の実践に役立てるよう取り組んでいきたいと思っています。

今後も「身近で頼りになる教育センター」をめざし、様々な教育課題に取り組んでいきたいと思っています。（文責 水嶋 智巳）

- 【参考文献】 小学校学習指導要領解説 総則編 (文部科学省)  
 中学校学習指導要領解説 総則編 (文部科学省)  
 小・中学校新学習指導要領Q&A (千葉県教育庁教育振興部指導課)

# 平成22年度佐倉市教育センター等報告会」から

平成16年度より始まった「佐倉市教育センター等報告会」も本年度で7回目の開催となりました。教育センターの指導主事及び、佐倉市内教職員で、長期の研修をしている教職員が、調査研究の成果を市内の教職員、教育関係機関職員及び市民に発表するとともに、今後の教育活動の工夫改善を図り、質の向上を目指すための研修の場として、報告会を行っているものです。

今年度の、佐倉市教育センター等報告会の様子を紹介します。

## 〈報告会の概要〉

- 会 場 佐倉市立美術館 4階ハイビジョンホール
- 参加人数 65名 (市民含む)
- 発表者及び発表内容
  - 第1発表 佐倉市立上志津小学校 教諭 小島 実 先生  
「実感を伴った理解を図るための学習プログラムの開発」  
～第3学年「風やゴムの働き」の学習を通して～
  - 第2発表 佐倉市立臼井西中学校 教頭 鈴木 康弘 先生  
「企業に学ぶ」 ～長期研修生として～
  - 第3発表 佐倉市教育センター 指導主事 小川 英昭  
「教職員意識調査の経年変化について」

## 【第1発表での様子及び概要】



風やゴムの動きを諸感覚で捉えるための  
様々な教材・教具の工夫

- ア 感じる糸 (手)
- イ 風が見エールポータブル (目)
- ウ ゴムの体感, ランドヨット (全身)
- エ 手回し送風機と電子メトロノーム (手)
- オ どこでも実験できるテストコース (目)

### 学習プログラムの開発

見出す	調べる	深める	まとめあげる
学習計画を立てる	風やゴムの働きについて調べる	生活との関連について調べ体感する	風やゴムを使ったものづくり

## 【第2発表での様子及び概要】

### この研修で得たこと

- 1 経営理念と企業の社会的責任から  
(1) 経営理念「いつも人から」
- 2 接客の基本的な心構え  
「全員が自ら率先し、笑顔でお客様を迎え、見送ります」  
「お互いに、職場のメンバーのことを気かけ、誉めるときは誉め、注意すべきは注意します。」
- 3 個人情報保護の徹底
- 4 販売実務の実際から
  - ・朝礼・商品知識・心身の健康
  - ・人間関係・安全・防災



### 研修の成果の具体的な還元方策

- 1 生徒児童・保護者のニーズに応える
- 2 「教職員」＝「学校」
- 3 人間関係を育てる

## 【第3発表での様子及び概要】



### 【考えられる今後の手だて】

知識、技能の習得 → **日々の継続**  
活用を図る学習の取組 →  
**習得・活用・探求という学習の流れ**  
言語に関する能力の育成 →  
**各教科において、言語活動を活用する指導を積極的に取り入れる指導計画**

### 【意識が高い結果となった取組】

(数値は、おおむね取り組んでいると答えた割合)

- 「基礎的・基本的な知識、技能の習得をめざした学習の取組」 (96.6%)
- 「知識・技能の活用を図る学習の取組」 (83.7%)
- 「実態に応じた指導方法や指導体制の工夫等の取組」 (83.7%)

### 【意識が低い結果となった取組】

- 「言語に関する能力の育成を図る取組」 (64.4%)
- 「日頃の様子や学習状況等を保護者に説明したり協力したりする等の取組」 (58.3%)
- 「地域の教育資源や学習環境を活用した授業の取組」 (39.6%)

センターでは、今後も各校のよりよい実践例を紹介していくとともに、今日的な教育課題に関する調査研究に取り組み、先生方への助けとなるような手だてや支援を引き続き行っていきたいと考えています。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。(文責 水嶋 智巳)

# 適応指導教室のひとコマから

「佐倉市適応指導教室」では何らかの要因によって学校に行けない児童や生徒に、教育相談やグループ活動を通して、学習や集団生活への適応を促し、学校への復帰を支援しています。今回は適応指導教室のふだんの1日を追ってみました。

## 〈朝〉「おはようございます」

生徒のみなさんが教室にやってきました。  
今日のめあてを自分で決めてファイルに書き込み朝の会に臨みます。「今日は英語を頑張る」  
「写生会の絵を終わらせる」・・・  
先生から一言いただき、各自の学習開始です。

## 〈午前〉「勉強タイム」

12:00までの約2時間

休憩をはさみながら学習に集中です。

生徒「先生、この式はどうやるんですか？」  
先生「どれどれ？ここはね・・・」

わからないところは先生方に聞くこともできます。学校での課題をここでを行い、提出することも可能です。・・・職員室では先生が電話をかけているようです。まだ来ていない生徒のみなさんに確認の連絡を入れています。

## 〈昼〉「昼食タイム」

お昼は家から昼食を持参です。ほっとした空気が流れ、おしゃべりが聞こえてきました。

先生「午後はどうするのかな？」

生徒「卓球やりたいなあ」

午後の活動も自分で決めます。今日はどうやら卓球大会のようです。

体をほぐす意味でも軽運動は貴重な活動です。



## 〈午後〉「楽しい活動」

先生VS生徒のみなさんで卓球が始まったようです。他にも創作活動やお話活動ゲームなど交流活動も行います。

## 〈帰り〉「一日の振り返り」

一日の振り返りをファイルに書き込み、みんなで帰りの会を行います。一日で頑張ったことを一人ずつ発表です。「今日はワークを頑張れた」「卓球が楽しかった」その日の気持ちもファイルに残します。日直「ではこれで終わりにします。礼」みんな「さようなら」

毎日の積み重ねで子どもたちの様子は変わっていきます。家から一歩踏み出すことができたことが大きなきっかけになるのです。どのお子さんにも言えることは「一人ではない、人とつながっている実感」をもたせることができるかどうかなのではないでしょうか。適応指導教室では通常の教室の他、調理実習やクリーン活動、児童青少年課との連携による農作業体験など様々な角度から子どもたちへのアプローチを行っています。不登校のお子さんが成長するきっかけになればと願っています。

## 適応指導教室のご案内（センターHP内）

<http://www.city.sakura.lg.jp/kyoikucenter/index.htm>

## 編集後記

今回は「教職員意識調査・速報」及び「センター等報告会」を特集しました。紙面が限られていて十分な紹介ができないのが残念ですが、データから教育課題を把握し、さらなる研修につなげていただければ幸いです。また教育センターでは各学校作成の学習指導案、研究紀要などの収集・保管を進めています。資料検索の場としてご活用ください。